

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 6

2015 No.729

3 はじめの言葉

4 読み方／動き方で変わる情報

情報に対する人間の態度

田原文夫

成長真っ盛りと言えるクラウドシステム市場だが、業者の「バックアップ不要宣言」は、かなり思い切った物言いだ。カウンターインテリジェンスという言葉があるように、ターゲット情報を得ようとすれば、どういうターゲットを得ようとしているかの動静が知られる。それがクラウド／インターネット時代である。アベノミクス政策があつての現経済状況か、単なる景気の巡り合わせか、結論はまだ出ない。経済学を知らなくても経済が分かればいい。経済とは実生活のことである。

10 情報社会を考える その57

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

グローバル、リージョナル、ローカル／パーソナル

よく使われる言葉に「適切に」とか「最適化して」というのがある。耳障りは非常に良いのだが、これほど曖昧な言葉もない。これに「諸事情を総合的に判断して」という副詞句フレーズが付くと、さらに言葉の爽快感は増しながらも、意味の不明度も増してくる。今国会で論議されている国家国民の安全対策論議に頻繁に出てきているフレーズである。

特に最適化(オプチマイゼーション)で難しいのは、その立ち位置でまったく異なる施策／解決策／考え方になる可能性があることである。企業にしても、地域にしても、国にしても、グローバル、リージョナル、ローカル／パーソナルな視点で異なったものになる。

12 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM構築が必要か その52

水田 浩

オープンガバメント OG 18 工業化社会をデジタル化する

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALSの一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つのCALSという概念(言葉)で1995年から2005年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

19 連載 アーキテクチャ論 (50)

非機能要求の定量評価手法

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

連載42回で、NFRフレームワークによるアーキテクチャ評価について紹介した。その手法では、安全性とセキュリティを総合的に評価できる。しかし、それぞれの非機能要求を独立に評価しているため、総合的な評価値を求めることはできなかった。今回は、筆者が新たに考案した、アーキテクチャの安全性とセキュリティを統合した評価値を計算できる方法を紹介する。

26 連載 日本再生と人材育成

人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その5 Dr.ベスト

「情報と人材」をテーマにマルチ人間的に生きた

あるサラリーマンの半生

マルチ人間、スーパー人間と呼ばれてもいいほど、高度成長時代からバブル崩壊、そして今日に至るまで4回の定年退職(1回目:企業の早期退職制度に基づく退職(52才)、2回目:同企業の関連会社における定年退職(60才)、3回目:某大学における定年退職(65才)、4回目:別の大学における定年退職(70才))を経験しながらも「情報と人材」をテーマに働き続けてきた男がいる。その男の生き方は人口減少／少子高齢化時代への挑戦に何らかのヒントを与えることができるのではないと思われる。その半生を「履歴書」的に紹介させていただきたい(編集部)。

33 IT新時代とパラダイム・シフト

第67回 政府のドローン規制は日本版赤旗法にならないか 根本忠明

ドローンは、「空の産業革命」を引き起こす画期的なイノベーションとして期待されている。それが、首相官邸に落ちていたドローン事件を契機に、マスコミの報道は一斉に危険なドローンを規制すべきに変わってしまった。政府が検討中のドローン規制法案は、日本版赤旗法になる危険性が高い。これでは、かつて技術大国と呼ばれた日本の産業力の凋落が、さらに加速すると危惧せざるを得ない。

35 続インテリジェンスへのいざない 65

人間が主役でちょっとだけ勝てるAIシステム

今井 武

コンピュータ神話という表現があった。コンピュータが出した結果だから間違いがない、という言い方もされた。人間の仕事をコンピュータが代行してくれるという夢の憧憬願望がなせる業だった。それが高じて、経営トップのすべき意思決定までコンピュータがやってくれると夢想され、期待する時代があった。さらにそれを進めて具現化してくれるのではないかと期待されたのがAIシステムだった。やはり過剰な期待だった。それほど甘いものではない。ところが依然として根強い期待は残っている。昨今のAIシステム動向を検証してみた。

38 連載 四字熟語力トレーニング

すぎやまチヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 第一章 目録が必要としているデータ | 第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート |
| 第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点 | 第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール |
| 第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス | 第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール |
| 第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル | 第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション |
| 第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス | |
| 第六章 データ・ウェアハウス管理システム | 付録 |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|------------------------------|------------------------|
| 第一章 これまでのEUCIでできなかったこと | 第七章 多次元データベースを作る |
| 第二章 OLAPの定義 | 第八章 多次元データベースの構造 |
| 第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール | 第九章 多次元データベースとアプリケーション |
| 第四章 分析処理の歴史 | 第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド |
| 第五章 OLAP(多次元データベース)の形 | 第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ |
| 第六章 データウェアハウスとOLAP | 付録 |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|-------------------|------------------------|
| 第一章 消費者行動論 | 第四章 消費者意志決定 |
| 第二章 消費者行動と心理的決定要素 | 第五章 消費者行動トピックス |
| 第三章 消費者行動と社会的決定要素 | 第六章 人間であること(人間行動トピックス) |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリニティ 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー | 第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記 |
| 第二章 aism情報セキュリティマシントリニティ研究会の発足 | 第十二章 メールが通らない |
| 第三章 認知される電子署名方式の基本原則 | 第十三章 生体ネット運用のための |
| 第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム | 第十四章 最新のインターネット防衛準備心得 |
| 第五章 情報システムにおけるリスク | 第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策 |
| 第六章 情報漏洩対策 | 第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育 |
| 第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク) | 第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」 |
| 第八章 aismの2014年度の事業計画 | 第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての |
| 第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題 | 第十九章 |
| 第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス | 第二十章 |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|-------------------------|-------------------|
| 第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題 | 第五章 情報システム監査 |
| 第二章 経営活動と情報システム | 第六章 情報システム部門の体制革新 |
| 第三章 経営情報システム革新の方向 | 第七章 情報システムの成果評価 |
| 第四章 トップ主導の情報システム開発 | 第八章 変化対応のシステム作り |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|-----------------------|------------------|
| 第一部 計量モデル | 第二部 大規模モデルの効率的解法 |
| 第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史 | 第五章 計量モデルの分割方法 |
| 第二章 線形計量モデルの解法 | 第六章 方型式のオーダーリング |
| 第三章 非線形計量モデルの解法 | 第七章 大規模モデルの解法 |
| 第四章 反復法の問題点 | 第八章 スパース |
| 付録・電子計算機の高速化と計量方法 | |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|----------------------|--------------------------|
| ■ 広報ビジネスの前提条件 | ■ 売定文化企業体質 |
| ■ ニュースリリースは東方向選定 | ■ 守るも攻めるも広報が窓口 |
| ■ 活字媒体の特性をチェックする | ■ あなたならどう対応する「事例編」 |
| ■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック | <付> 監修とうまく付き合う16の鉄則(まとめ) |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 第一章 発端 | 第十一章 日本開港法の違い |
| 第二章 あるプロジェクト | 第十二章 米軍チーム乗組の危機 |
| 第三章 新しいシステムへの働き | 第十三章 新たな仲間 |
| 第四章 WOOIに向けて | 第十四章 米軍乗組所帯と新たな悩み |
| 第五章 FJO、IBM競争 | 第十五章 開港フェスティバルとバンタツ |
| 第六章 日本プロジェクトチームの発足 | 第十六章 ユーザー教育 |
| 第七章 プロジェクト開始 | 第十七章 日本運用体制と本番乗組員 |
| 第八章 米軍チーム立ち上りの流れ | 第十八章 既存システムとのデータ交換の問題 |
| 第九章 大きな壁、英語コミュニケーション | 第十九章 乗組員の一日、訓練、乗組の苦しみ |
| 第十章 米軍チーム、異なる三人組 | 第二十章 乗組の二 安室乗組と北米センター乗組 |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp